

玉川村

未来あすが輝く村づくり“元気な”



遙か昔から脈々と
受け継がれてきた
玉川村での暮らし。
先人たちから私たちへと
手渡されてきた
大切な宝物。
この村の豊かな自然と、
伝統文化と、
人々の営みと。
これまでも、これからも
途絶えることなく
次の世代へ。
無限の可能性を信じて。



Contents | Guide to Tamakawa Village

1	たまかわの歴史(史跡)・文化	4
2	たまかわのおいしい	8
3	たまかわですくすく・いきいき	10
4	たまかわに住む	18
5	たまかわを巡る・楽しむ	20
6	たまかわの桜	27
7	たまかわの取り組み	28
8	たまかわの国際交流への取り組み	30
9	たまかわの遊水地対策への取り組み	31
10	たまかわマップ	32
11	玉川村振興計画後期基本計画・事業の概要	34
12	玉川村の概要	35

時代とともにシンカ(進化・深化・新化)し、 選ばれる、選んでいただける 村づくりをコンセプトに

活力ある、元気で豊かな子どもが“夢”を、
若者が“希望”を、
お年寄りが“生きがい”を持てる
魅力ある玉川村を



たまかわの伝統文化

南須釜の 念仏踊り

みなみすがまのねんぶつおどり

江戸時代から

受け継がれてきた

伝統の舞

本村のほぼ中央に位置する南須釜地区。この山あいの地域に江戸時代から続く民俗芸能があります。春と夏の年2回、東福寺境内で行われる「南須釜の念仏踊り」。



東福寺境内へ

地区の伝承によると、江戸初期の慶安年間（1648～1651）、16歳以下の男女が新盆の家々をまわり、仏を供養するために踊ったのが始まりとされています。

慶安年間といえは徳川家光が将軍だった時代。その頃から代々、受け継がれてきたのかと思うと感慨深いものがありますが、その間、変遷がなかったわけではありません。明治の後半から昭和初期にかけて一時、途絶えた時期があったのです。

それを昭和27年（1952）に復活させたのが明治14年（1881）に生まれ、12歳のときから踊りに参加していた大野ケサさん（故人）です。

現在の踊りはケサさんの記憶を基に再現されたもので、その後「南須釜念仏踊り保存会」によって継承され、昭和50年（1975）には県の重要無形民俗文化財に、昭和53年（1978）には文化庁の民俗文化財に、平成19年（2007）には福島遺産百選に認定されています。



奉納する少女たちと来場者

ふるさとの 財産として 未来へつなげたい

念仏踊りが行われるのは、毎年4月3日（春の大寺薬師祭）と8月14日（お盆）の午前中。東福寺の境内において、村内の12歳までの少女たちによって奉納されます。

現在、保存会に伝わる曲目は「小夜の中山」から「下妻」まで全9曲。華やかな衣装を身にまとった少女たちが、保存会の方々が奏でる笛や鉦かね、歌に合わせて「立ち踊り」と「座踊り」を披露します。

全曲、踊り終わるのに約25分。全員が揃って踊るには日々の練習が欠かせず、保存会では月に1回、地区の集会所を利用して合同練習を行っています。

踊りを指導するのは、かつての経験者や地域の人たち。まだあどけなさが残る子どもたちに全9曲の振り付けを手取り足取り教え、一人前の踊り子として育てていきます。

そしてやっとうまく踊れるようになった頃、その子たちは卒業の時期を迎え、また新しい子どもたちに受け継がれます。この世代交代を繰り返しながら、念仏踊りは代々、ふるさとの財産として踊り継がれていきます。



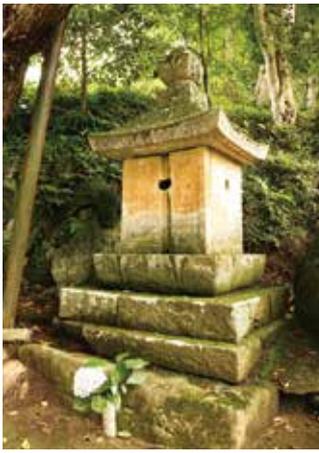
踊りを奉納する少女たち

歴史の継承 たまかわの 歴史

東福寺舍利石塔

【国史跡指定】

東福寺境内（南須釜字久保宿）にある舍利石塔。元久二年（1205年）乙丑・当地の開山和尚の舍利が安置されており、鎌倉時代の弥勒浄土往生の思想を表現したものです。



江平遺跡

えだいらいせき

時を超えた天平人の記憶

— 木簡 —

江平遺跡は、阿武隈川右岸に位置しており、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が多数発見されました。円墳を中心とした31基の古墳のほかに、古墳時代および奈良・平安時代の住居跡合わせて74軒、奈良・平安時代の建物跡98棟などがみつかっています。

特に、天平十五（743）年と墨書きされた木簡が出土しており、「続日本紀」の内容を証明する貴重な資料となっています。また、木簡の出土



したすぐ近くからは、竹製の横笛もみつかっており、年代が明確なものとしては、日本最古と思われるとても貴重なものとなっています。

木簡には、聖武天皇が最勝王経の読経を命じたことを受けて、江平遺跡周辺に居住していた人が最勝王経と大般若経をたくさん読経したという内容が記されています。

川辺宮ノ前古墳

かわべみやのまえこふん

【県指定史跡】

古墳時代後期の古墳で、墳丘はすでに原形を留めていませんが、横穴式石室の一部が残っています。

石室内部は極めて精巧な切石によって構成され、当時すでに権力者がいたことを物語っています。



宥音聖人堂

ゆうおんしょうにんどう

1575年創立の宥音聖人堂は、通称「山小屋の聖人様」といわれ、言い伝えでは「宥音」という名僧が、山頂に穴を掘り、干し柿一連を持って、穴に入り「無病息災、安産」を祈願し、鐘を鳴らし読経を続けること100日、仏様になったとのこと。

安産の守護神として近郷近在から多くの信者が参拝に訪れます。

4月の第2日曜日が祭礼日となっています。



おおてらじょうあと

大寺城跡



大寺城は、中世石川氏の拠点の城郭として石川有光が承保元年（1074年）に築城したと伝わる城跡です。築城時は土地の名前と有光の前居城名をとって藤田鴨城と呼ばれていました。文安3年（1446年）光義が城主のとき、石川町中野から東福寺を移したのにちなんで大寺城と改められ、大寺氏を名乗るようになりました。

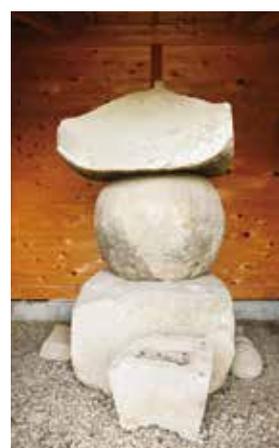
天正17年（1589年）伊達政宗軍来攻の際には所領争いの確執などから、須賀川の二階堂氏と組んで伊達氏と結んだ石川氏に対抗しようとした。しかし、二階堂氏と共に破れ石川昭光の軍門に下ったため、戦国時代終末期まで使用された大寺城も没収されたと伝えられています。

せきぞうごりんとう

石造五輪塔

【国重要文化財指定】

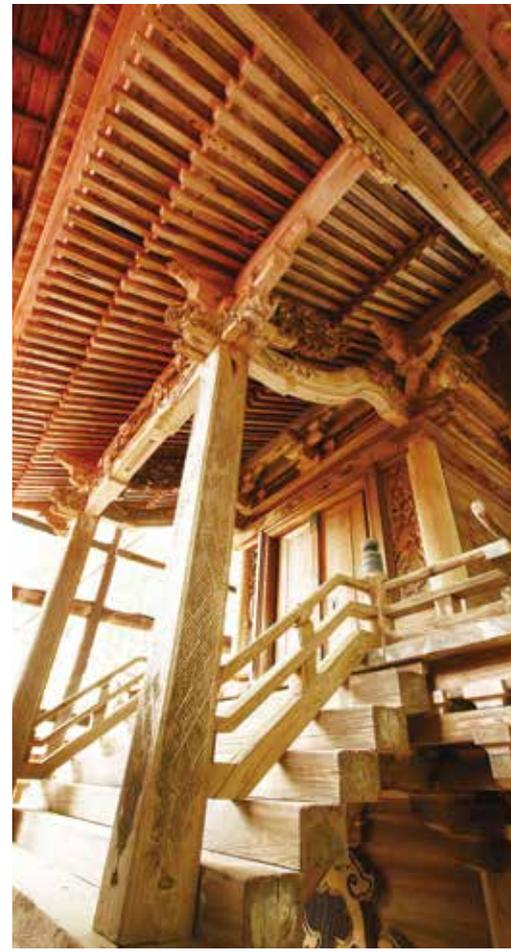
昭和13年に国の重要文化財に指定された五輪塔は、藤原時代末に領主源基光の墓として建立された石塔婆で、日本の石造工芸史上、また仏教美術史上でも非常に評価の高い貴重な財産として巖峯寺参道の覆堂に安置されています。



かわべはちまんじんじゃほんでん

川辺八幡神社本殿

【県重要文化財指定】



江戸時代初期の建造物で、平成5年（1993年）にわたり、県重要文化財として修復工事が行われた本殿は、永くこの地を治めていた石川氏の氏神として、広く信仰を集め崇められてきた由緒ある古社です。

現在は、保存のために端垣で囲まれています。屋根を支える端正で見事な桁の彫刻などは、見るものを圧巻する美しさです。主材に頑丈な栗の木を使い、建築様式は太い木割りを用いた豪壮な江戸初期の造りで、寛文・享保などの改造を経て今日に至っていることが現存する6枚の棟札から伺え、「奉

棟札正八幡宮武運長久祈慶長四巳亥十月」の棟札写しからみて、慶長年間の建立ではないかと推察されています。

また、内陣天井裏に南北朝期の貴重な古文書が秘蔵されていたり、源頼朝の大蛇退治を加護した伝説など、歴史浪漫を感じさせる話が残っています。



玉川村の おいしい

玉川村は、阿武隈山地の西斜面に位置し、起伏が激しく標高差約400mになり、この地形が気温変動や日較差を生み出し、栽培環境に大きな影響を与えています。阿武隈山系から流れる豊かな天然水と阿武隈川の恩恵を受け、高品質な農産物が生産されています。



きゅうり

玉川村の主力農産物の一つ、みずみずしく歯ごたえが最高です。



トマト

美味しい中玉トマトやミニトマトが様々な栽培方法で生産されています。



野菜詰合せ

道の駅(こぶしの里)では旬の野菜を詰合せ、全国に発送しています。 ※季節により野菜は異なります。



いんげん

昼夜の寒暖差を活かした鮮やかな緑色が特長です。



ブルーベリー

道の駅(こぶしの里)で販売しております。収穫時期には摘み取り体験も出来ます。



トマトジュース

甘味の強いしぼりトマトを使った100%のジュースです。

さるなし100%ジュース

ビタミンCが豊富でさるなしの風味が
生きています。



さるなしの果汁が入った
美味しいドリンクです。



さるなしはこくわとも言われ、
ビタミンCやミネラルが豊富な
スーパーフルーツです。
9月中下旬から10月下旬頃までの
短い期間で収穫されます。

さるなし



さるなしサイダー

すっきりとした飲み口が、
夏場にピッタリのサイダーです。



お米

主に食味の良い「コシヒカリ」と
「ひとめぼれ」が栽培されています。
近年は福島県の奨励品種である
「天のつぶ」も栽培されています。



たまかわで

すくすく いきいき

生まれたときから切れ目のない ライフステージのサポート

玉川村では、安心して子どもを産み、育てられるよう、子育ての各段階に応じた支援を行っています。保健師による赤ちゃん訪問をはじめ、全ての子育て世代をサポート。教育面では、ICT教育や幼少中連携など、多彩な学びの場を提供しています。また、若い世代の方達が「住んでみたい」「住んでよかった」と思える玉川村を目指しています。地場産業や将来の成長が見込まれる産業の強化、基幹産業である農業の付加価値を高め、働く場の創出や担い手育成の仕組みづくりを行っています。

また、玉川村への愛着や将来にわたり「玉川村に住みたい」という想いを育みながら、子どもから高齢者まですべての人が生涯を通して健やかな暮らしを築けるよう健康長寿のむらづくりを進めています。

乳幼児期

0歳～

生まれる前からのサポート

妊娠期から親子に寄り添い、子育てに対する相談や情報提供など、母子の健康を支援

- 妊産婦健康診査の費用の一部助成
- こども家庭センターによるサポート
- 誕生祝金や子育て支援給付金
- すくすくクラブ など



6歳～

児童期

子どもたちがいきいきと育つ環境

心身の健康を育む教育環境のもと、生まれ育った郷土を誇れる豊かな心を備えた子どもの育成を支援

- 放課後児童クラブ
- こども医療費助成金（0歳から18歳）など



青少年期

12歳～

次世代のリーダーを育成

次代を担う子ども一人ひとりが人間性を育み、社会へ参加・参画する主体となるよう支援

- ICT教育、メディア教育の推進
- 玉川学園連携事業
- 放課後学習支援、中学生国内研修 など



20歳～

壮年期

新規就農・起業のサポート

新規就農や起業を目指す方に向けて、資金支援、経営相談など総合的に支援

- 担い手づくり支援事業
- 創業支援事業 など



高齢期

60歳～

生きがいと健康づくり

住み慣れた地域で安心して、自分らしく生きがいを持って活動し、社会活動や文化活動に積極的に参加できるように支援

- 介護予防事業と介護サービスの提供
- 敬老祝金、特別敬老祝金の給付 など



こども家庭センター

妊娠、出産、子育てについての総合相談窓口です。

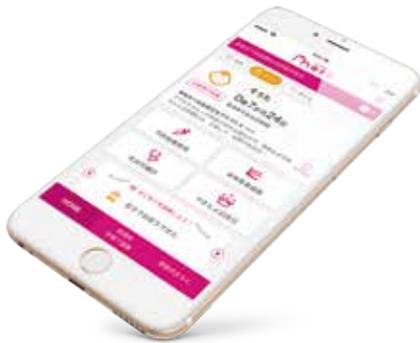
妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を行い、子どもたちの健やかな成長を手助けします。子育てに関する相談や情報提供、支援など、子育て世代のお父さん、お母さんをサポートしています。

場所 玉川村保健センター

電話番号 0247-37-1024

開設時間 午前8時30分から午後5時15分（土日、祝日を除く）

主な業務 妊娠・出産・産後に関する相談、子育て相談、母子手帳の交付、妊産婦訪問指導、
新生児・乳幼児訪問指導、乳幼児の健康診査、子育てに関する情報提供 など



子育てアプリ「たまぴよ」

妊娠中・子育て中のママとパパが、子どもの成長記録や予防接種のスケジュール管理、子育て情報を受け取ることができるなど、子育てに役立つ機能がたくさんあります。



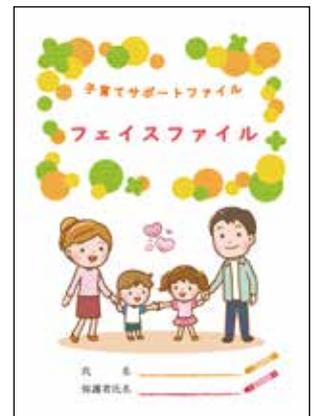
ダウンロードはこちらから▶

子育てサポートファイル「フェイスファイル」

障がいのあるなしにかかわらず、お子さんの成長・発達に合わせた継続性のある支援ができるよう、保護者と関係機関がお子さんの情報を共有するためのファイルです。お子さんの個性や特徴、これまでの経過などを共通理解して、情報共有することで一貫した支援を受けられるようサポートしています。



ダウンロードはこちらから▶



乳幼児健康診査

乳幼児の発育・発達を確認するために、医師・歯科医師の診察や保健師・栄養士等の個別指導を行っています。

- 3～4か月児健康診査（公立岩瀬病院）
- 1歳児バースデー健康診査
- 3歳児健康診査
- 9～10か月児健康診査
- 1歳6か月児健康診査
- 2歳児・4歳児発育発達相談会
- 5歳児健康診査

予防接種

予防接種法によって定められた定期の予防接種の費用は、村が全額負担しています。また、任意の予防接種（インフルエンザ、おたふくかぜ）の費用を一部助成しています。



仕事と 子育ての 両立を支援

子育て環境の良さは、住みやすいまちの指標の一つです。少子化が進む中、村では安心して子どもを産み、育てられる環境づくりに力を入れています。

就学前のお子さんには認定こども園、学童期には小学校区ごとに放課後児童クラブがあり、共働きでも安心。また、赤ちゃんの誕生を祝う誕生祝金の贈呈や、3歳になるまでのお子さんを育てている保護者に対する子育て支援給付など、子育て世代の経済的負担の軽減にも努めています。

生後4カ月までのお子さんがある全ての家庭へ「こんにちは赤ちゃん訪問」を行っています。保健師が訪問し、赤ちゃんの体重測定や育児に関する相談、お母さんの産後の体調を確認したり、母子保健サービスの紹介などをお手伝いしています。



認定こども園 たまかわクックの森

村内には幼保連携型認定こども園たまかわクックの森があり、安心して子育てができるよう、子育て相談事業や一時預かり事業を実施しています。



すくすくクラブ

0歳から就園前までのお子さんと保護者が、親子で楽しめる遊び・学びの場で、月に2回実施しています。



ファミリー・サポート・センター

子育ての手助けをしてほしい人、子育ての手助けができる人が会員登録し、相互援助を行う制度です。



放課後児童クラブ

共働き家庭などの小学生が放課後安心して過ごせるよう、西部及び東部地区に設置されています。



わくわくらんどたまかわ

福島空港ターミナルビル3Fにある「屋内遊び場わくわくらんどたまかわ」。
小学2年生までの幼児・児童が利用できます。飛行機の離着陸を眺めながら小さなお子さんを安心して遊ばせることが出来る場所です。



こどもの駅

認定こども園「たまかわクックの森」の周囲に広がる「こどもの駅」。
野外ステージ、クックドームたまかわ、公園遊具などがあり、小さな子どもでも安心して遊べる素敵な場所です。お天気のいい休日には、親子で遊びに来てください。



いとおかしな放課後公民館

毎週土曜日に公民館で開かれるオープンスペース。学生（未就学児は保護者同伴）を対象に、自由に宿題ができるスペースや足し算の勉強ができる駄菓子ブースなど、楽しく学べる空間をイメージした放課後公民館。ぬり絵やパズルなど小さなお子さんが楽しめるコーナーもあります。（※臨時休業の場合もあります）



クックちゃん文庫(玉川村公民館)

絵本やコミック、雑誌や小説など約19,000冊の本があります。Wi-Fi と電源完備の学習スペースやキッズスペースなど、ゆっくりと過ごせる空間です。また、毎月楽しいイベントを開催しています。

こども医療費助成金

子育て世帯の医療費負担の軽減を目的として、お子さんの医療費の一部を助成しています

◇助成対象

村に住所を有し、健康保険に加入している0歳から18歳に達する年度の末日までの方

◇助成金の額

保険診療分の自己負担額、入院時の食事療養費

◇申請期間

診療日から5年以内

たまかわっ子誕生祝金

お子さんの誕生を祝福し健やかな成長と子育てを支援します

◇支給要件

- ①子どもの誕生前、引き続き1年以上玉川村に住所を有し、現に居住していること。
- ②子どもの誕生後、引き続き3か月以上玉川村に住所を有していること。
- ③第2子以降については、生計を同じくする18歳以下の兄弟が同居していること。
- ④保護者及び保護者と生計を同じくする者に、村税等の未納がないこと。

◇祝金の額 第1子:10万円、第2子:20万円、第3子以降:50万円

児童手当

◇支給要件

高校卒業までの児童を養育している方。

◇支給額（1人あたりの月額）

3歳未満……………一律 15,000円
3歳以上高校修了前……10,000円
※第3子以降は 30,000円

たまかわっ子子育て支援給付金

家庭におけるお子さんの健やかな成長と子育てを支援します

◇支給要件

- ①保護者が3歳未満の児童を養育していること。
- ②保護者が村に住所登録されており、継続して1年以上本村に住所を有すること。
- ③保護者及び保護者と生計を同じくする者に、村税等の未納がないこと。

◇給付金の額(月額) 児童1人あたり 5,000円

妊婦のための支援給付

健やかな妊娠・出産と安心して子育てができるよう支援します

◇支給要件

- ①玉川村に住所を有した妊婦で、産科医療機関で妊婦健診を1回以上受診していること。
- ②他自治体で給付を受けていないこと。

◇給付金の額

1回目：妊娠届出後、妊婦に対し5万円 2回目：胎児の数届出後に5万円×胎児の数

村内の児童・生徒が対象の

学校給食費の補助制度



村内の小中学校に通う児童・生徒と認定こども園たまかわクックの森の園児を対象に給食費の半額補助を実施しています。

高騰する物価対策の影響により、家計を圧迫しがちな子育てに関する経済的負担を少しでも軽減し、ファミリー層の暮らしを応援しています。

奨学資金貸付制度

◇対象者

修学期間が2年以上の専修（専門）学校や大学に在学し、経済的理由により修学が困難な方

◇貸付の額

1か月あたり5万円（年額60万円以内）
在学する学校の正規の修学期間

◇償還期間

卒業の月の6か月後から月額1万円以上を返済
・4年制大学等、看護学校等 15年以内
・短期大学等 10年以内

◇償還（返済）の免除

卒業後、村内に6年以上定住かつ村内の公共施設や主要な企業等に引き続き6年以上勤務
未返還の2分の1以内の返済を免除

ともに支え合い、 安心して暮らし続けられるまち “元気な”玉川

私たちの生活の中ではあらゆる生活の場面で、家族や地域、職場でも支え合いが存在していましたが、少子高齢化の進行や生活様式の多様化による人と人とのつながりの希薄化により、全国的に支え合いの機能が弱まってきています。

こうした中、人と人、人と地域のつながりを持ち、互いに支え合うことで、住民一人ひとりの暮らしや生きがい、地域を共に創っていく社会を目指す「地域共生社会」の実現にむけて「地域包括ケアシステム」の深化・推進が一層必要になっていきます。玉川村では、運動サロン、お茶会サロンや認知症カフェなどを定期的に開催することにより、地域に住む多世代の人々が自由に参加でき、主体的に関わることで、誰もが役割をもち自分らしい生活をおくることできるなど、住民同士が互いに助けあえる関係を築いていくことを目指しています。



充実した 福祉サービス

玉川村では、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、様々なサービスを提供しています。

寝たきりや一人暮らしの方を対象に、寝具類の衛生管理を目的とした寝具類洗濯乾燥消毒サービスや高齢者の緊急通報サービスなどを行っています。

また、一人暮らしの方への配食（弁当）サービス、民生委員や傾聴ボランティアの定期的な訪問など、社会とのつながりを支援します。



住民主体型高齢者サロン

高齢者が自主的に集まって活動しているグループです。玉川村の各地域で16グループあり、4～5人で活動している小さなサロンもあります。



リハビリ教室

介護予防を目的に、保健センター内にある健康推進ルームのトレーニングマシンを使ったリハビリ教室を実施しています。

誰もが
安心して
暮らせる村

地域包括 支援センター

地域包括支援センターは、玉川村社会福祉協議会の運営のもと、包括的な支援を行う中核拠点として、地域住民や各種団体、医療機関、介護サービス事業者等と連携し、高齢者を支える「総合相談窓口」です。高齢者やその家族の介護にかかわる悩みや困りごとの相談窓口、介護予防ケアプランの作成、高齢者にとつての暮らしやすい地域にするためのネットワークづくり、運動サロンやお茶会サロンなどの介護予防事業が主な役割です。



また、専門知識を持った職員が、介護サービスや介護予防サービス、保健福祉サービス、日常生活支援などの相談に応じており、介護保険の申請窓口も担っています。



もちもたの会

玉川村では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らし続けることができるよう、地域住民や関係団体等が情報共有し、連携及び協働による資源開発を推進することと、地域共生社会の実現を目指して、「もちつもたれつ、お互いさま」の意味を含め「もちもたの会」を設立しています。

「もちもたの会」で立ち上がった有償ボランティア「もちもたサポート隊」では、村内の一人暮らし等高齢者に対して、草取りやゴミ出しといったちょっとした困りごとのお手伝いをしています。



玉川村もちもたサポート隊

玉川村もちもたサポート隊は、高齢者のみなさんが地域で安心して楽しく暮らせるよう、お手伝いするボランティア団体です。普段の暮らしの中でちょっとした困りごとや、一人では難しくなってきた掃除や買い物等のお手伝いをします。利用してみませんか？

利用するには ※利用には登録が必要です。気軽にご連絡ください。

利用料金表

- 1時間未満……………400円
- 1時間～1時間30分…600円
- 1時間30分～2時間…800円

例えばこんなこと

- ゴミ出し ● 買い物（村内） ● 調理 ● 掃除
- 洗濯 ● 整理整頓 ● 窓ふき
- 衣類の入れ替え・繕い ● 草取り、雪かき

※草刈り機を使う作業はできませんのでご了承ください。

- その他 ご相談の上検討します。

事務局 社会福祉法人玉川村社会福祉協議会 ☎0247-57-4410

高齢者等QOL向上支援事業・御用聞き(コンシェルジュ)サービス実証事業

玉川村では、様々な事業をとおして、高齢者等の生活の質、いわゆる QOL、クオリティー・オブ・ライフの向上を目指しています。高齢者等QOL向上支援事業の一つとして、高齢者や障がい者、移動に支障のある方々などを対象に「御用聞きサービス」を登録制により実施しています。主に日常のお買い物や通院、郵便局や役場への付添いのほか、余暇支援などのサービスを行っており、利用者からは大変好評をいただいております。

ご利用実証料金 ● 1時間……………1,000円



たまかわに住む



移住定住促進補助事業

村内に住宅を取得する移住者や若者の経済的負担を軽減するため、新築または中古住宅を取得した方に補助金を支給します

◇対象者

○移住者向け

(移住者新築住宅取得補助事業) 令和8年3月31日までの間に、新築住宅を取得し要件に該当する方
(移住者中古住宅取得補助事業) 令和8年3月31日までの間に、中古住宅を取得し要件に該当する方

○定住者向け

(若年層定住促進補助事業) 45歳未満の方で、令和8年3月31日までの間に、新築住宅を取得し要件に該当する方

◇補助率 (限度額)

○移住者向け

(移住者新築住宅取得補助事業) 基本額…30万円 移住者加算…20万円
子育て加算 (15歳未満の子に限る) 第1子:10万円 第2子以降:20万円

(移住者中古住宅取得補助事業) 基本額…20万円 移住者加算…20万円
子育て加算 (15歳未満の子に限る) 第1子:10万円 第2子以降:20万円

○定住者向け

(若年層定住促進補助事業) 基本額…30万円
子育て加算 (15歳未満の子に限る) 第1子:10万円 第2子以降:20万円

◇要件

- ①新規取得した住宅の所有者 ②同居世帯員全員が所在地に住民登録をしている
- ③同居世帯員全員に市町村民税等の滞納がない ④5年以上継続して対象住宅に居住する意思がある
- ⑤過去に同一世帯及び同一区画でこの補助金の交付を受けていない



子育て世帯応援引っ越し費用補助金

村内に移住する子育て世帯の経済的負担を軽減するため、引っ越し費用を補助します

◇対象世帯要件

- ①移住前に継続して1年以上本村以外の市区町村に住民登録されており、移住時に15歳未満の子がいる世帯又は申請者若しくは配偶者が妊娠している世帯
- ②移住の日から6か月を経過していない世帯
- ③3年以上継続して本村に定住する意思がある
- ④引っ越し作業において運送事業者と引っ越し等に係る契約を締結している
- ⑤申請者及び同居世帯員全員が前住所地の市区町村税等について滞納がない

◇補助率 (限度額)

補助対象経費の総額の2分の1 (上限10万円)

◇補助対象経費

- ①引っ越し運送費用 (運賃等)
- ②荷造り等サービス費用 (作業員料、梱包資材費等)
- ③付帯サービス料 (エアコンの取付手数料等)

たまかわに住むための支援等は他にもたくさん!!
詳しくは玉川村公式ホームページをご覧ください。

公式
HP





たまかわ移住支援金給付事業

東京23区内に居住または通勤していた方が玉川村に移住し、就業や起業等をした場合に移住支援金を交付します

◇対象者

一定期間、東京23区に在住または埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県(条件不利地域等を除く)に在住し、東京23区に通勤していた方

◇補助率(限度額)

単身：基本額 60万円
2人以上の世帯：基本額 100万円
子育て加算：18歳未満の子1人につき最大100万円

◇要件

- ① Fターンサイト等に掲載される対象法人に応募して採用される
- ② プロフェッショナル人材事業において採用される
- ③ 地域課題解決型起業支援金の採択を受ける
- ④ 玉川村の関係人口と認められる
- ⑤ 移住元での業務を移住先においても引き続きテレワークを行う



結婚新生活支援事業

新婚夫婦に対し、住居費及び引っ越し費用を補助します

◇対象者要件

- ① 令和7年1月1日から令和8年3月31日までに婚姻届を提出し、受理され法律上の婚姻関係にある
- ② 夫婦の前年の総所得額が500万円未満
- ③ 補助を受けようとする年度の翌年度から1年以上継続して本村に定住する意思がある
- ④ 婚姻の日において、夫婦の双方が39歳以下

◇補助率(限度額)

補助対象経費の額(1,000円未満の端数は切り捨てた額)(上限30万円。夫婦ともに29歳以下の場合、上限60万円)

◇補助対象経費

- ① 住居費(購入費、賃料、敷金、礼金等)
- ② 引っ越し費用(運賃等)



空き家・空き地バンク

村内の空き家及び空き地の有効活用のため移住希望者等へ情報提供を行っています

◇事業の流れ

- ① 貸したい・売りたい人が「空き家・空き地バンク」に登録(物件登録者)
- ② 借りたい・買いたい物件があれば村に連絡(利用希望者)
- ③ 物件登録者及び利用希望者に互いの情報を連絡
- ④ 交渉・契約は当事者間で交渉するか、登録事業者(宅建業者)の仲介により交渉

◇ホームページアドレス

<https://www.vill.tamakawa.fukushima.jp/akiya/>



空き家・空き地バンク 利活用事業費補助金

玉川村空き家・空き地バンクを利用して定住する方に補助金を支給します

◇対象者

玉川村空き家・空き地バンクを利用して、契約が成立した空き家・空き地の所有者及び購入者

◇補助率(限度額)

購入契約1件につき 所有者上限：5万円
購入者上限：10万円

◇要件

- ① 空き地を購入し、その土地に住宅を新築し当該住宅に3年以上居住する意思がある
- ② 空き家を購入し、当該物件に3年以上居住する意思がある
- ③ 空き家・空き地の所有者

日本の滝100選 乙字ヶ滝

おつじがたき

名瀑「乙字ヶ滝」

玉川村と須賀川市の間を流れる阿武隈川唯一の滝で、乙の字の形で水が流れ落ちることからその名の由来といわれています。日本の滝百選にも選ばれており、特に春の桜の季節には多くの人々が訪れる玉川村随一の観光名所です。

水かさが増すと、約100mもある滝幅いっぱいには落下する水しびきが、松の緑にも映え雄大な景色を眺めることが出来ます。

元禄2年には、俳人松尾芭蕉が訪れ「五月雨の滝降りうづむ水かさ哉」の俳句を詠んだとされており、滝見不動堂のかたわらには句碑があります。



② 玉川村から須賀川市を通り郡山市に至る約30kmの大規模自転車道



③ 滝見不動堂



④ 芭蕉の句碑

複合型水辺施設

乙な駅 たまかわ

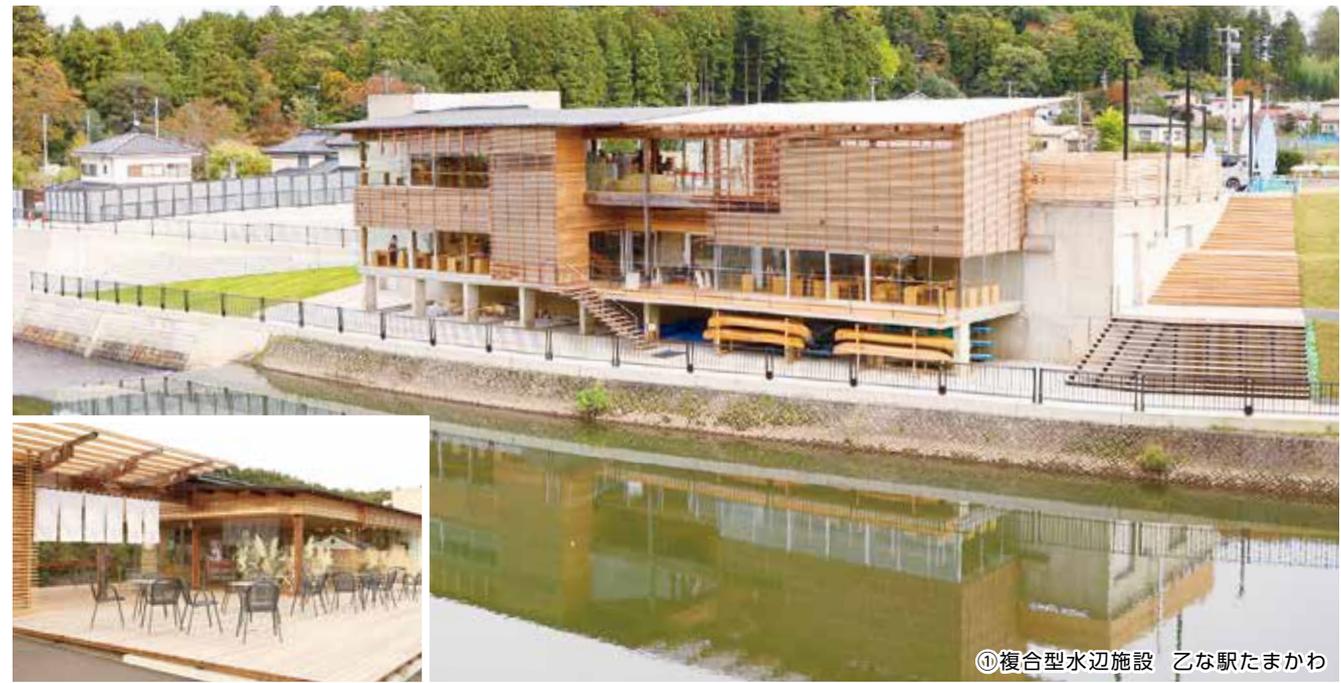


賑わいと交流の場となる空間 「乙な駅 たまかわ」がオープン

乙字ヶ滝かわまちづくり計画は、乙字ヶ滝周辺を国・県・村・民間が協力・連携して交流人口と関係人口の拡大等に繋げていくことを目的に各種事業を行っています。景勝地である乙字ヶ滝や乙字ヶ滝公園、みちのくサイクリングロードなどの観光資源を生かして、展望・親水を楽しみながら複合型水辺施設までを繋ぎ周遊性を高めていきます。

自然と歴史の拠点である乙字ヶ滝において「賑わいと交流の場となる空間」として、玉川村に立ち寄る機会、玉川村での滞在時間を延ばして楽しく過ごせるような空間づくりとして、村では阿武隈川の畔に建つ建築家の隈研吾氏が手掛けた建物を複合型水辺施設「乙な駅たまかわ」として整備し、観光交流の拠点としています。

「乙な駅たまかわ」では、ベーカリーカフェ、ステーキレストラン、クラフトビール醸造所、周辺観光や村物産品の案内、カー・SUPアクティビティ、レンタサイクル等を行いながら、お料理フェスやクラフト工作、音楽イベント、ウエディングなど、様々なイベントも実施しています。



①複合型水辺施設 乙な駅たまかわ



クラフトビール醸造所



ステーキレストラン



クラフトビールサーバー



ベーカリーカフェ



リバーサイドデッキ



お土産コーナー

“職・住・遊・学”

すがま プラザ



「働く」・「住む」

「遊ぶ」・「学ぶ」の場所へ

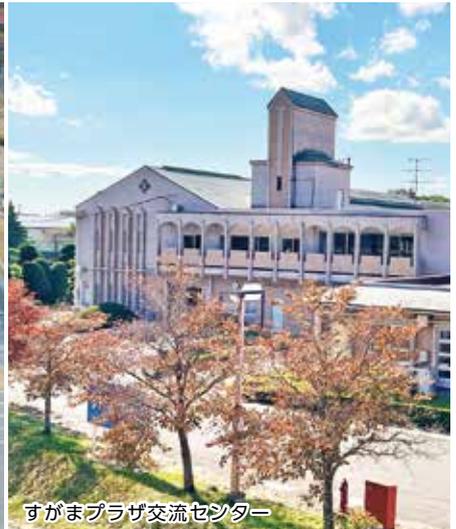
「すがまプラザ」は、すがまプラザ交流センターを中心に「職」「住」「遊」「学」をコンセプトにして、楽しみながら様々な可能性を探求する場として現在、活用されています。

センター内には、「職」のスペースとして、「コワーキングスペースたまかわ」「オフィススペース」があり、県内外の事業所が入居しています。「遊」「学」については、体育館や旧須釜中学校の特別教室をそのまま活用し、使用する方々の自由な発想で様々な活用が図られ多種多様な交流が生まれています。さらに、須釜行政センターを設置しており、地域の身近な行政機関としての役割を果たしています。

また、旧教員住宅を活用した「たまかわくらし体験住宅（トライアルステイ）」も整備されており、村外から多くの移住希望者が「たまかわくらしのお試し」を体験しています。更には、「住」機能として校庭を活用した宅地造成整備を実施し、令和7年度から販売を開始しています。



すがまプラザ住宅エリア



すがまプラザ交流センター



サテライトオフィス



コワーキングスペースたまかわ(フリースペース)
※10キガピットイーサネット導入



エントランス

豊かな自然の中で実現する
自分だけの「たまかわくらし」

たまかわくらしプロジェクト

たまかわくらし サポートセンター



たまかわくらしをトータルサポート
村では「移住」を強力に打ち出し、
移住者の受け入れを人口減少対策の一
つとして実行しています。
令和6年度から移住相談者に対する
ワンストップ窓口としますが、プラザ
交流センター内に「たまかわくらしサ
ポートセンター」を設置しました。こ
こでは移住コーディネーターや集落支
援員が相談対応し、生活に必要な「住
まいやお仕事」等のサポートを行って
います。



また、地域の方々から「たまかわくらし応援サポーター」として、協力的にただける方々をお願いし、地域における日常生活等のサポートも実施していきます。他にも村内空き家を利用したお試し住宅事業として、「プレスティータまかわ事業」、村内農家の作業手伝いを行いながら、観光なども楽しんでもらう「農ワーケーション実証事業」、地域事業者等の課題を解決するための副業として新たな仕事を創出し人材をマッチングしていく「1人多役「福業たまかわ」創出事業」も同時に行っています。

たまかわくらし 体験住宅



玉川村に移住したい・玉川村で地域活動がしたいなどを考える村外の方が「たまかわくらし」を体験できるお試し住宅です。

使われなくなった旧教員住宅を活用することで、空き家対策と並行し、移住希望者等の受け入れを行っています。

福島県の真ん中くらいにある玉川村。そんな玉川村で移住体験をしてみると、玉川村の良さがきつと分かるはず。

たまかわくらし体験住宅は1泊2日から3泊3日まで、短期でのお試し移住にぴったりのお試し住宅です。



お試し住宅

たまかわくらし ワークスタイル



新しいワークスタイルの創出。農業+αによる農ワーケーションとデュアル農家、そして1人多役「福業たまかわ」創出事業

農業が身近にある暮らしを体感しながら、農業との新しいかわり方を実感し、農家さんなどと一緒に地域の農業を体験することで農家ライフを味わえます。また、都会の喧騒から離れ、豊かな自然の中でリモートワーク。それぞれのスタイルに合わせて、滞在日程を組むことができます。リモートワークの合間には、地域の農作業体験やアクティビティで、リフレッシュできます。

さらには、村内事業者と副業人材をマッチング。村内事業者の困りごとを副業人材が持つ専門知識やスキルで解決をお手伝いし、新しい仕事に挑戦することが出来るキャリアの幅を広げながら、自分のスキルを活かした地域貢献ができます。



観光交流施設

森の駅 yodge

もりのえき よっじ



静かな森を背にたたずむ「森の駅 yodge」

旧四辻分校を

リノベーション

明治時代に開校し、これまで多くの方々に学びの場として親しまれてきた旧四辻分校が「たまかわ観光交流施設 森の駅 yodge」として生まれ変わりました。

Yodgeには、宿泊室や大浴場のほか、冒険心をくすぐる屋根裏ライブラリー、屋根の上からの景色が楽しめる展望デッキ、常設のカフェもあり、来訪者の快適な空間を演出するモダンな設備が備えられています。一方で、歴史ある旧四辻分校のノスタルジックな面影を大切にし、当時の床材や柱、梁をそのまま再利用し、宿泊室の入り口には、当時の教室のガラス窓が使用されています。



常設カフェから桜も眺められます

玉川村の静かな里山の中に位置し、農業体験や清流の散策等をはじめ、テントサウナや焚火など、様々なアウトドア体験が、初めての方でも気軽に安心して体験できる場所になっています。

また、施設内での宿泊はもちろんのこと、地元産の木材をふんだんに使用したトレーラーハウスや、テントでの宿泊など、来訪者の宿泊スタイルに合わせて選ぶことができます。

玉川村では、地域とのつながりを大切にしながら、多くの人々が利用できる施設を整備することにより、交流人口の増加を目指していきます。

来訪者の皆様に、村の良さ、自然の良さ、田舎の良さを体験し、知ってもらうことにより、移住などのきっかけづくりができればと考えています。



トレーラーハウス内の宿泊ルーム



施設内の宿泊ルーム

交流人口拡大の一躍を担って

たまかわ観光交流施設「森の駅 Yodge」では、玉川村が推進している観光事業の交流拠点として、地域と連携しながら、多くの方にご利用いただけるよう、様々な取組を実施しております。

Yodgeでの過ごし方のひとつとして、玉川村ならではの自然や食材を生かした豊かな体験コンテナツを取り揃えております。

また、夏には地域の伝統行事である夏祭りを、秋には地域の方と一緒に稲刈りをして収穫したもち米を使用し、餅つきや芋煮汁を振る舞う収穫祭を実施しております。

施設の新たな活用として「Yodge wedding」を展開し、従来型のウエディングスタイルにとらわれず、様々なアウトドア系アクティビティを楽しみながら、前泊から始まる2泊3日のウエディングプランもご利用いただけます。



夏まつりでの打上げ花火



地域の伝統行事を継承した「yodge 夏祭り」



yodge 収穫祭



yodge wedding

Yodgeでの食事

森の駅 Yodge では、各地の旬の食材に地元産の食材が添えられた料理が食べられます。

パスタやハンバーグ、ローストビーフなどの他に自家製のプリンやコーヒージェリー、スフレパンケーキなどのデザートも豊富に取り揃えてあります。

ここで過ごせて良かったと思っただけ「時間」をより大切に彩ります。



yodgeオリジナルメニュー



田植体験



日本一自転車が好きなたまかわ

サイクル ヴィレッジ たまかわ

アーバンスポーツ たまかわ



オリンピック競技にもなっているBMXやスケートボードができる県内唯一の屋内パーク。雨や雪などの天候にも影響されないので安心して楽しめます。

ミニランプやジャンプランプ、バンクバンク等、豊富なセクションを揃えています。また、国内では珍しく屋内にエアバックを設置しており、派手なエアトリックにトライ出来ます。更には、シャワー室や初心者も安全

に楽しめるスペースもあり、週末には、県内外より多くの方々が集まり、初心者から上級者まで幅広くスケートボードやBMXを楽しまれています。



スキルパーク たまかわ



トレイル利用者のニーズに合わせ、観光やフィットネスなどの目的でも楽しめるスキルアップフィールド

自転車を実習して安全にスリルを楽しむための場所、日本でも数少ない「スキルパーク」が玉川村にはあります。

「自転車にハマった」「もっと練習をしたい」「トレイルを格好よく走りたい」などの要望が叶うパークです。また、自転車に乗らない人も、デイキャンプ等のアウトドアが楽しめるので、子どもから大人まで色々な方が一日を通して楽しむ事が出来る施設となっています。



トレイルフィールド たまかわ



豊かな自然や地形を生かし、様々な性格のコースを整備。多種多様な利用者のニーズに対応

2つのトレイルコースを準備しており、ひとつは飛行機と並走気分が味わえ、迫力のある離着陸を間近で見ることが出来る「福島空港トレイル」と、もう一つは1990年代のダウンヒルコースを連想させ、道幅も広く、現代風にバームやウォールが整備されたルート「岩法寺トレイル」。

それぞれのトレイル走行時には公認ガイドが付き添うので安心して走行ができます。また、初心者向けにスキルパークでの講習に加え、レンタルにはMTBやe-bikeもあり初心者でも楽しめます。





金毘羅桜

こんびらざくら

樹齢300年の紅枝垂桜は「種まき桜」と言われ、天明・天保の大飢饉後、金毘羅詣りの記念樹として植樹されました。根元には金毘羅様の祠が建立され、桜とともに地域を見守っています。敷地内には、多数の花が咲き、香りとともに春の訪れを感じられます。

たまかわの桜

たまかわけめぐり



由ノ杜公園

ゆかりのもりこうえん

500本以上の桜並木が見られる公園です。展望の丘(夕陽の丘)からはあたりが桜色、黄色、桃色等に染まった景色がまさに桃源郷のようで圧巻です。個人が丹精込めて整備された敷地内には、菜の花やチューリップなどの春の花も同時に楽しめます。



中池公園

なかいけこうえん

中池を囲むようにソメイヨシノを中心とした桜が植えられ、満開時期は水面に桜が映り一帯が桜色に染まります。桜のトンネルは圧巻で、つい足を止めて写真を撮りたくなる場所です。



大庄屋桜

おしょうやざくら

福島空港の東側、南須釜にある桜です。そのむかし石川郡や田村郡までを治めた大庄屋が屋敷に植えた桜であることから名づけられました。樹齢推定 500 年を誇り、悠然とした雰囲気を感じさせています。



大寺城跡

おおてらじょうあと

石川氏の拠点的城郭として石川有光が1074年に築城した山城を公園として整備し、南須釜地区の桜を一望することができます。公園内にはソメイヨシノ等が咲き、ゆっくりと花を楽しむことができます。



乙字ヶ滝公園

おつじがたきこうえん

日本の滝100選に選定された乙字ヶ滝を眺望できる公園内には、ソメイヨシノ等の桜やこぶしの花が楽しめます。



福島空港公園

エアフロントエリア

ソメイヨシノを中心に約 60 本が咲き誇ります。また「福島広場」の周囲には桜のトンネルとなる散策路もあり足を止めながら楽しむことができます。

玉川大学との連携

玉川村では、2017年から玉川大学(東京都町田市)と連携協定を締結し、まちづくりの推進や教育・文化の振興、生涯学習の推進、産業振興など様々な分野で協力して取り組んでいます。

取り組み

01

玉川大学体験授業のようす

玉川中学 1年生を対象に、玉川大学における体験授業をとおして、大学の魅力や大学で学ぶ意義を感じ取ること、大学訪問により、大学の雰囲気を感じ取るとともに幅広い視野を持ち、将来設計の一助となるよう支援しています。



取り組み

02

玉川大学学生による学習支援

村内の小中学生を対象に、夏休み期間中に夏休みの課題を中心とした学習支援を行っています。



取り組み

03

玉川村×玉川大学交流・関係人口拡大事業

玉川大学の学生が本村を訪れ、村の自然や特産品、歴史など様々な資源(観光コンテンツ等)を調査し、情報発信を実施し、本村の魅力度アップのための活動をしています。



\\ 人と人が集い、つながり合える駅 //

たまかわの“駅”シリーズ

人が集まり、出会いつながることを大切に、みなさんの交流を築き上げます



森の駅 yodge

令和3年7月
オープン

廃校となった分校をリノベーションし、面影を残しつつもモダンな造りとなっています。



乙な駅たまかわ

令和6年9月
オープン

阿武隈川の畔で水辺を楽しむことができます。様々なアクティビティを兼ね備えた交流の場となっています。



健康の駅たまかわ

平成26年8月
オープン

健康づくりから介護予防まで様々なトレーニングを行うことができます。



こどもの駅

平成28年3月
オープン

認定子ども園やクックドームたまかわ、遊具広場などの空間を「こどもの駅」としており、小さな子どもでも安心して遊べる場所です。



道の駅たまかわ

平成18年8月
オープン

村特産の新鮮な野菜や果物などの直売や、さるなし、とまとなどを加工した豊富な特産品が販売されています。



空の駅たまかわ

平成21年2月
オープン

道の駅たまかわ（こぶしの里センター）の出張所として、福島空港内に設置され、現在は「空の駅」コーナーとして、玉川村の特産品さるなしの商品などを販売しています。

友好都市の台湾 鹿谷郷との

国際交流



たまかわ荘を視察した鹿谷郷訪問団

玉川村と台湾南投縣鹿谷郷

台湾南投縣鹿谷郷との交流の始まりは、当時、玉川村に福島空港の建設が決定し、これに伴い「国際的視野を持った人づくり」の推進を図るため、昭和63年5月3日に友好都市提携を結びました。

以来、相互訪問を重ねながら、一輪車、サッカー、ソフトボール、ミニバスケットボールなどによるスポーツ交流や書道交流、農業視察など、教育・文化・産業の各分野において様々な交流を実施しています。

鹿谷郷について

鹿谷郷は、台湾烏龍茶として有名な「凍頂烏龍茶」の産地として知られており、また小学校から英語教育に力を入れるなど教育についても国際化に対応できる人づくりを行っています。

気候は温暖で、動植物の種類が豊富であり、風光明媚な鹿谷郷は、観光地としても人気があり、年間約111万人の観光客が訪れており南投縣の経済発展に寄与しています。国家森林遊樂区の一つである「溪頭森林遊樂区」は、国立台湾大学農学院が管理しており、銀杏や孟宗竹など温帯の植物が生い茂り、台湾杉や柳杉などの高木の森林地、遊歩道が整備されているため森林浴を楽しむことができます。また、溪頭森林遊樂区は、多種類の蝶や野鳥が生息しているため動物保護だけでなく、環境教育や学術研究の場としての役割もはたしています。



台湾南投縣鹿谷郷



製茶工場を見学する玉川村訪問団



鹿谷郷を訪れた玉川村訪問団



たまかわ荘を視察する鹿谷郷訪問団

阿武隈川上流遊水地群整備事業

令和元年東日本台風により阿武隈川流域全体で甚大な被害が発生したことを踏まえ、国土交通省では「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」に基づき、玉川村、鏡石町、矢吹町に、約350ヘクタール（東京ディズニーランドの約7倍）に及び大規模な遊水地群（阿武隈川上流遊水地群）の整備を進めています。

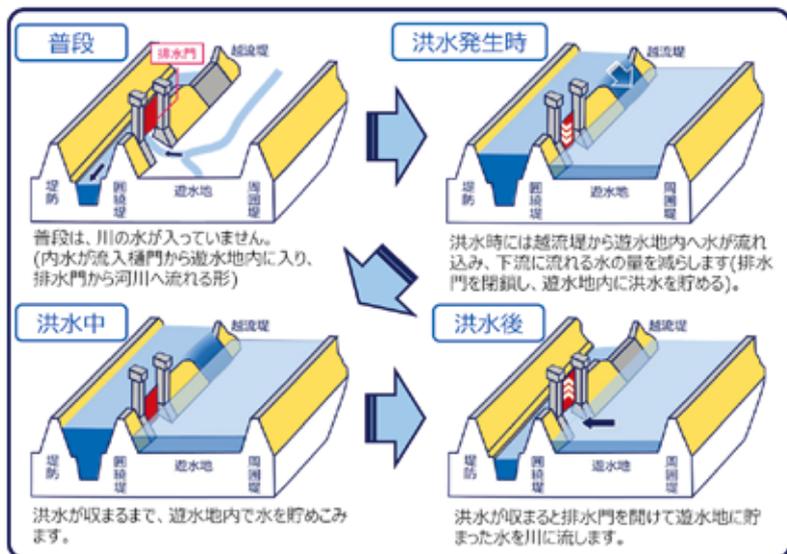
遊水地は、洪水で川の水が増えた際、その水を一時的に貯め込み、川の水位を下げることで下流域における浸水被害等を軽減するもので、阿武隈川上流遊水地群の整備により、郡山市の阿久津水位観測所（富久山町）付近では、河道掘削による効果と合わせて洪水時に約0.8m水位が低下すると見込まれています。

令和15年度の完成を目指し、令和4年10月から用地協議等が進められており、令和7年度には架け替える橋梁や排水門、家屋の集団移転先となる代替地の工事が開始される予定となっています。また、完成後の遊水地内の利活用が課題であることから、阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会（国、県、3町村及び有識者等）を中心に、地域振興にも資する活用方法の検討が進められており、農地利用に関する検討では、実現可能性を調査（水稻の品質・収量など）する試験栽培も行われています。

遊水地群全体計画図（令和7年4月現在）



遊水地のしくみ



遊水地内利活用に向けて

遊水地内利活用の1つとして検討されている農地利用は、遊水地内の掘削した断面に作土を敷いたほ場での営農となることから、農地の適性などの技術的課題を調査するため、第二遊水地予定地の一角に試験ほ場（水田・約42a）を整備し、令和7年春から水稻の試験作付けが始まっています。

遊水地内と同じ掘削面に作られた試験ほ場ではコシヒカリが作付けされ、生育状況や品質、収量等を通常の水田と比較して調査していきます。



3 東野の清流



1 乙字ヶ滝



Google

阿武隈川が滝をなして乙の形をしています。水かさが増すと、100mもある滝幅いっぱいに落下する水しぶきが松の緑に映えて雄大。元禄2年には俳人松尾芭蕉が訪れ、その時に詠んだ「五月雨の滝降りうづむ水かさ哉」の句碑が、滝見不動堂のかたわらにあります。



2 乙な駅 たまかわ



HP

阿武隈川の畔、名勝「乙字ヶ滝」の隣にオープンした複合型水辺施設です。隈研吾氏による設計で水辺を楽しみながら、カフェやレストラン、クラフトビール醸造所の他に、カヌーやサップ、レンタサイクル等のアクティビティを備えた観光・交流拠点の「場」となります。



3 東野の清流



清流のせせらぎが心地よくさわやかな風と小鳥のさえずりが心を和ませてくれます。遊歩道に沿う清流には大小さまざまな滝があり、四季折々の表情に癒されます。



4 森の駅 yodge



HP

閉校となった旧四辻分校が「たまかわ観光交流施設 森の駅 yodge」として令和3年にオープンしました。リノベーションされた施設は、かつての分校の面影を残しつつもモダンで、豊かな自然に囲まれながらゆったりとした時間が流れます。



5 福島空港



HP

開港以来「ふくしまの空の玄関口」として親しまれています。東日本大震災では、地震当日から多くの臨時便や救援・支援物資を積載した輸送機、防災ヘリなど災害対応の重要拠点の役割を果たしました。



6 すがまプラザ



HP

令和2年3月に閉校した旧須釜中学校と周辺施設を総称して「すがまプラザ」としています。旧校舎では、須釜支所の機能を充実させ「須釜行政センター」として展開するほか、コワーキングスペースやサテライトオフィスなど新しい働き方の「場」を提供しています。



10 たまかわ文化体育館



Google

可動椅子を備え講演会などにも対応したアリーナ、図書室、歴史資料館を備え、スポーツや文化活動など玉川村の生涯学習拠点です。隣接する屋外ステージや屋根付き広場クックドームたまかわと併せ多くの方に利用されています。



11 玉川工業団地

株式会社 TBK、有限会社 佐藤製作所
株式会社 福島エンヤ



12 わくわくらんど たまかわ



Google

「天空のあそび場」をテーマに「空」と「空港」をモチーフにしたあそび場です。窓から滑走路や飛行機の離発着を見ながら、子どもたちが安心して遊べます。1回90分の入替制で、小学2年生までの幼児、児童が利用することができます。

基本目標・主要施設の項目の体系

村民と 共に歩み育む 心豊かな村づくり

●村づくりの基本理念

人口減少社会の今、村の維持・発展のためには地域の総合力が今まで以上求められていることから、今後の村づくりの基本理念を以下のように定めることとします。村民と行政が一体となった協働による村づくりを推進することで、村民すべてが心豊かで過ごせる地域社会を実現することを基本理念とします。

あす 未来が輝く村づくり “元気な” たまかわ

●将来像

本村の未来を輝かしいものにするためには、今まで以上にすべての村民や本村で働く人たちが“元気な”村づくりをしていきます。

活力や活気のある玉川村を作り上げるため、地域の歴史や先人の知恵、苦労や失敗を知り、玉川村の未来を考え、進取の気性を持ち、実行・実践していく姿勢を将来像に込めています。

1	皆で支えあう福祉の村づくり	1	保健・医療の充実
		2	社会保障制度の適切な運営
		3	児童福祉・子育て支援の充実
		4	地域で支えあう福祉の推進
		5	障がい者福祉の充実
		6	高齢者福祉の充実
2	環境にやさしい安全・便利な村づくり	1	環境衛生の充実
		2	自然環境の保全と循環型社会の構築
		3	安全で安定した水道水の供給
		4	公園・緑地・水辺の整備
		5	下水道・排水処理施設の整備
		6	合理的な土地利用の推進
		7	居住環境の整備と空き家対策の推進
		8	道路・交通ネットワークの整備
		9	消防・救急体制の充実
		10	防災体制の整備
		11	交通安全・防犯対策・消費者対策の充実
		12	情報化の推進
3	活力のある村づくり	1	農林業の振興
		2	商業の振興
		3	工業の振興
		4	雇用・勤労者対策の充実
		5	観光資源の創造と観光客誘致の推進
4	人を育む村づくり	1	学校教育の充実
		2	青少年の健全育成
		3	生涯学習の推進
		4	スポーツの振興
		5	地域文化活動の推進と文化財の活用
		6	交流活動の展開と国際化への対応
5	交流と協働の村づくり	1	コミュニティ（地域社会）の育成
		2	協働の村づくりの推進
		3	男女共同参画の推進
		4	行財政改革の推進
		5	広域行政の推進
地方創生総合戦略における重点プロジェクト (人口減少対策)		1	選ばれる村づくりプロジェクト
		2	元気な産業応援プロジェクト
		3	共に生きる村づくりプロジェクト
		4	元気な地域づくりプロジェクト



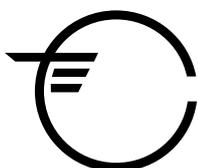
SDGs(誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会)の理念を踏まえ、第6次玉川村振興計画を推進することにより、持続可能な社会の構築に寄与することを目指します。

概要

- 位置** 福島県中南部（石川郡）
- 地勢** 阿武隈山系の西斜面の丘陵地に位置し、比較的平坦地である西部地区と中山間地の東部地区からなり、豊かな自然があふれる農村です。 ※東西 11.3 km、南北 9.2 km、面積 46.67 km²、標高 246m～約 650m
- 気候** 阿武隈山系特有の起伏の多い地形であるため、標高別の気象条件の変化が大きく、気温の年較差も日較差も比較的大きいのが特徴です。また、東北地方にありながら、冬季の降雪は比較的小さい地域です。
- 人口** 6,273 人（第137回福島県統計年鑑 2023）
- 産業** 水稲やトマト・キュウリ等の農業が村の基幹産業ですが、西部地区には玉川工業団地があり、多くの雇用を生み出しています。
- 教育関連** 認定こども園 … 1 / 小学校 … 2（放課後児童クラブ … 2） / 中学校 … 1

村章

[昭和49年制定]



玉川村の頭文字「た」を図案化したもので、村民の和と協力によって明るく豊かな村づくりに着実に進む玉川村を象徴している。

村民憲章

[昭和60年11月制定]

玉川村の住民としての誇りと責任を持ち、美しい自然と伝統ある郷土を愛し、さらに活力に満ちた魅力ある村づくりを進めるため、この憲章を制定し実施します。

1. 美しい自然と伝統を大切にし、住みよい村をつくりましょう。
1. 教養と文化を高め、心豊かな村をつくりましょう。
1. 健康で楽しく働き、活力ある村をつくりましょう。
1. 思いやりと連帯の心を養い、明るい村をつくりましょう。
1. 広い視野と創意を持ち、飛躍する村をつくりましょう。

由来

須釜村から泉村に流れている玉川（その後名称変更により現在泉郷川となる）にちなんで命名されたもので、その意味には、相馬にある妙見神社がその昔、泉の庄玉川の辺に鎮座したという古事もあり、さらに泉が須釜村と合併して川になると云う意味が含まれていると、合併当時の記録に示されている。妙見神社：両村境の玉川沿いの小高い森に鎮座する社である。

シンボル

[昭和60年制定]



村の花：山桜



村の木：赤松



村の鳥：山鳩

アクセス



鉄道で	東京	東北新幹線 95分	郡山	水郡線 35分	玉川村 泉郷
車で	東京	東北自動車道 120分	矢吹JC	あぶくま高原道路 9分	玉川村 玉川IC
飛行機で	大阪伊丹空港	70分	玉川村 福島空港	80分	北海道 新千歳空港



玉川村役場 総務課

〒963-6392 福島県石川郡玉川村大字小高字中畷9番地

TEL 0247-57-3101 FAX 0247-57-3952

ホームページ <https://www.vill.tamakawa.fukushima.jp>